

令和 8 年度第 1 回美浜区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

1 日 時

令和 8 年 8 月 2 5 日（火）午前 1 0 時 0 0 分から午前 1 1 時 3 0 分まで

2 場 所

美浜保健福祉センター 4 階 大会議室

3 出席者（29 名）

（1）委 員

相原委員、伊藤委員、伊原委員、太田委員、狩野委員、久保田委員、高口委員、小柴委員、佐藤委員、清水委員、鈴木委員、高田委員、田畑委員、手島委員、直井委員、中村（征）委員、中村（信）委員、原田委員、福井委員、水谷委員、吉川委員

※ 2 5 名中 2 1 名の委員が出席

（2）事務局

大森美浜区長、小倉美浜保健福祉センター所長（美浜区高齢障害支援課長兼務）、塚越美浜区地域づくり支援課長、高塚美浜区健康課長、星崎社会福祉協議会美浜区事務所長 他 4 名

4 会議の概要

（議題 1）委員長、副委員長の選任について

委員の互選により、委員長には久保田委員が、副委員長には水谷委員がそれぞれ選出された。

（議題 2）美浜区支え合いのまち推進計画の令和 7 年度推進状況について

事務局から令和 7 年度の推進状況について、美浜区全体の取組みを説明した。その後、各地区部会エリアの推進状況について代表者から報告し、意見交換をおこなった。

<稲毛海岸地区部会エリア>

・太田委員（区連協稲浜中学校区）

→美浜区全体の中では高齢化率が低く、比較的若い世代が住んでいるエリアといえる。自治会は 16 自治会あり、以前からある自治会では集会場を持っており引き続き活動しているが、新しい自治会では新たに集会場を設けることが難しく、サロン等の立ち上げ、運営の難しさを感じる。

誰もが過ごしやすい地域というところでは、SNS を活用した回覧板などの取り組みが進んでおり、LINE（有料サービス）でほとんどの連絡を取っている自治会もある。

福祉を支える人づくりという観点では、自分事として考えられる人が少ないことが課題であるが、集まった人のなかで少しでも興味や関心を持ってくれる人を巻き込んでいきたい。

また、小学生などの保護者世代が、子どもの卒業後に地域活動から離れてしまう傾向があるため、いかに引き留めていくかということに力を入れていきたい。

毎週水曜に実施しているパトロールは約 20 年前から続いており、当時 50～60 歳代だった人たちが 80 歳代に差し掛かっているため、やり方の改革も課題である。

<幸町 2 丁目地区部会エリア>

・手島委員（社協幸町 2 丁目地区部会）

→先日の豪雨では、幸町団地やマンションを擁する当エリアにおいて、比較的被害が少なかったと思われる。現在のところ、個人からの生活に関する困りごとの声も聞こえてきていない。

当エリアは高齢化率が 30%を越えており、情報を出そうとしてもそれをキャッチしてもらうことが難しいという課題がある。例えばLINEが使えないといったような状況が多々みられるように感じる。どのように情報を発信し、受け取ってもらえるのか、高齢者の福祉や地域交流の促進につながる方法を考えている。

人口は、団地があり海外から転入される方も増えていることから微増しているが、自治会活動について理解を得ていくことの難しさや、マンションの中には自治会を持たないところもある中で、地区活動に関する情報の伝達について考えていく必要があると思っている。

<幸町一丁目地区部会エリア>

・福井委員（社協幸町一丁目地区部会）

→当エリアも高齢化率が 30%を超えている。健康のためのスポーツに力を入れており、ボッチャなどを実施している。参加者は女性が多く男性や若い年代の方、お子さんなどの参加を促進していきたいが難しい。大学生の協力を得ながら地区活動の実施や道路清掃等を行っている。

また、「あんしんサポート」という、ゴミ出しの手伝いや病院の付き添いも引き続き実施しており、買い物困難者のための対策も取り入れた。

健康づくりでは、2 か月に 1 度、理学療法士による健康体操を実施し、毎回 20 人程度の参加がある。

広報活動については、地区連協と社協で毎月広報紙を発行し、奇数月は地区連協、偶数月は社協から発行している。

<高洲・高浜地区部会エリア>

・原田委員（社協高洲・高浜地区部会）

→「散歩クラブ」については、立ち上げる地域が増えている。サロンは年 1 回の情報交換会をもち、困っていることやその対策などの情報共有を行っている。「ふれあい食事サービス」も滞ることなく実施している。

社協地区部会があまり知られていないという事に課題があり、様々な取組みを行う中で社協地区部会として活動していることを伝えられるような形を作りたいと考えている。

まずは理事が地区部会としての取組を認識して進めていきたいと考えている。

＜真砂地区部会エリア＞

・久保田委員長（区連協真砂中学校区）

→自治会は33自治会あり、古くからある自治会と最近建てられた大きなマンションで組織された自治会などが混在している。新しい住民と以前から住んでいる住民の交流が課題である。

地域運営委員会で作成したホームページを通じて各地区の情報交換・共有をすすめている。

広報紙「真砂ふれあいだより」も引き続き発行し、自治会の有無にかかわらず全戸配布している。

地域支え合い活動「ささえあい まさご」は、一人暮らしの方の支援として病院への送迎や買い物支援などを行っている。介護保険の対象にならない部分を補う形で活動をしているが、支える側の人の確保に課題があり、介護の仕事の経験がある人などに支え合い活動への協力を依頼するなどの工夫をしている。

ふれあい食事サービスも、地域活動の重要な位置づけとして参加を呼び掛けている。

＜磯辺地区部会エリア＞

・水谷副委員長（社協磯辺地区部会）

→磯辺地区は自治会の加入率が高く、地域活動も自治会を基本として活動を行っており、磯辺地域ルームを定点に、毎週決まった曜日で事業を展開できるようにしている。

各自治会単位の活動として見守り活動や自治会の集会所等を利用したミニサロンの開催、地域横断の活動として子育てサークルを実施している。担い手も高齢化が進んでいるが、各々ができることを協力しながら実施している状況である。

また、主任児童委員がインスタグラムで活動発信するといった新しい試みも行い、近隣の地区からも参加していただいている。できる人数で、できることを行い、実施内容を深めている状況である。

＜幕張西地区部会エリア＞

・直井委員（社協幕張西地区部会）

→当エリアは戸建てとマンション、県営住宅などが混ざり合い、エリアによっては高齢化率が30%を超えるところもある。協働のまちづくりとして「幕西5656食堂」は3年目に入り、順調に展開している状況で担い手のスタッフも若い方が多い。続けて活動していけるよう工夫しながら関わっていききたい。

イベントとして夏の盆踊りや秋の防災訓練などを開催している。地区連協としてまちづくりに取り組んでいる。

ボランティア講座を幕張西公民館で実施しているが、入れる人数が少ないこと、参加者の高齢化などから課題を感じる。

子育てサロンの参加者が引き続きボランティアとして参画してくれるなど、若い方にも引き続き活動してもらえよう、負担が大きくならないように取り組んでいる。

＜打瀬地区部会エリア＞

・小柴委員（社協打瀬地区部会）

→高齢化率は13%と低いですが、若葉地区に若年層が多いためであると思われ、打瀬地区の高齢化率は少し高くなっている。エリアの中では、件数は少ないものの高額な詐欺被害があったため、警察から様々な情報を紹介していただきながら勉強会を実施している。

また、コミュニティスペース「絆」では様々な活動を引き続き行っており、これからも活動が続いていければと考えている。

打瀬中学区のエキサイティング講座では、講師を地区の中で一般公募したところ、多くの方から参加希望があり公募枠が埋まるなど、各活動に積極的に参加されている方が多い。

若葉地区では開発が最終段階に入っており、社協地区部会や民生委員児童委員協議会など、各団体がどのように関わっていくかを今後調整していく必要があると感じている。

【委員からの意見等】

・久保田委員長（区連協真砂中学校区）

詐欺被害防止についての話があったが、真砂地区でも警察に来てもらい、携帯電話にアプリを入れるなどの詐欺被害防止に関する説明会を開催している。千葉西警察では研修を受けた方が3名いるため、分かりやすい説明をしていただいている。

また、8月20日の大雨時に区内の交差点でも膝上まで浸かるほど水がたまる場所があり、高齢者の方が移動できなくなっている場に遭遇した。今後は大雨による災害時にも高齢者や子どもなどの災害対策を考えていかなければならないと感じている。

・高田委員（区連協幸町第二中学校区）

美浜区の中でも高齢化率が低い地域と高い地域に二分されるのではないかと感じている。そうした地域特性によって担い手不足に関する対策も異なってくる。地域の実情が違うという事を踏まえた上で、次期の計画では担い手不足への対応をより議論していけたら良い。

・吉川委員（社協真砂地区部会）

担い手不足については、各地域でも特色が異なることから、それぞれの地域と行政が密着した形で話し合いができるように進めていけると良い。

資料1の「美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）」について、全会一致で承認された。千葉市社会福祉審議会地域福祉分科会に美浜区の状況として報告する。

（議題３）次期（第６期）地域福祉計画における美浜区の実施項目について

事務局から次期地域福祉計画における区の実施項目の内容及び前回の推進協会の検討内容を説明し、次期計画における美浜区の実施項目の事務局案について説明を行った。

美浜区の実施項目の事務局案は、全会一致で承認された。

（実施項目選定の事務局案）

- ・ 共通的な地域の実施（別紙１）のうち、「A-2 ボランティア活動の推進」「B-1 居場所・仲間づくり」「C-3 地域での交流機会の創出」を美浜区的全地区部会エリアで実施する共通の実施項目とする。
- ・ その他の実施項目については、各地区部会エリアにて実施項目を選定する。
→ 選定した実施項目を各年度で変更することや個別の実施項目を選定しないことも可能とする。

（事務局案の説明）

各地区へのヒアリングなどをもとに美浜区の実施状況をまとめると以下のとおり。

- ・ 美浜区では既に各地区での実施が推進されているため、次期計画においてもこれまでの実施を推進していただきたい。
- ・ 各地域での実施を確認すると、ふれあい食事会や各種のサロンといった日常的に集まれる居場所づくりや、おまつり・スポーツ大会などのイベントはどの地域でも精力的に実施されている。
- ・ 地域活動の担い手については、運営側が高齢化しており、新たな担い手の確保を課題と考えている地区が多く、イベントなどの参加者に運営側に回ってもらえるような働きかけを工夫していきたいとの話もある。
- ・ 実施を進める中で、実施の方法や目的が変化しているケースや、新たな実施を開始している地区もあり、現計画で設定した地域の重点実施項目と新たに実施されている実施項目が一致しないといったケースが生じている。

これらの美浜区における現状と前回いただいたご意見を踏まえ、

- ・ 美浜区的全地区部会エリアで共通して実施する項目は、既に各地区で実施されている項目から選定することが望ましい。
- ・ その上で、多くの地区で課題と考えられている担い手の確保に関する実施項目として「A-2 ボランティア活動の推進」を、これまでどの地区でも精力的に実施されている実施項目を引き続き進めていただく実施項目として「B-1 居場所・仲間づくり」及び「C-3 地域での交流機会の創出」を選定してはいかがかと考えている。
- ・ また、共通の実施以外にも地域で積極的に進めている実施項目があるため、その実施項目を各地区部会エリアにて実施項目として選定し、6年間の計画期間の中で地域での実施内容や優先的にやりたい実施項目が変化していくことを想定し、各年度で実施項目を変更することや個別の実施項目を選定しないことも可能にしてはいかがかと考えている。

【委員からの質問・意見】

・吉川委員（社協真砂地区部会）

ボランティア活動の推進については、長い目で見た時に、学校教育などでボランティア活動に取り組んでもらい、その中で子どもたちに成功体験をしてもらえると、その後もボランティアに参加してもらえるような形に繋がっていくのではないかと考えている。今時点での活動もしていく必要があるが、長期的な視点で行政からも学校や地域の関係者含めたボランティア活動の教育にも取り組んでいただきたい。

→事務局

いただいたご意見を参考に、対応を検討してまいりたい。

その他

次回の開催については、令和9年2月頃を予定。